



# YCE 冬季派遣学生帰国報告

藤本理沙

私は、12月21日～1月9日まで、約20日間マレーシアに、交換留学させていただきました。

行くまでは、英語が通じるのか、家族と離れて大丈夫なのか、という不安がこみあげていました。が、行ってみると、ホームファミリーが温かく、そしてまるで家族のように私を迎えてくださったので、その不安は除かれ充実した時を過ごすことができました。

また、ホームファミリーには私と同級生の女の子と一つ年下の男の子がいたので、色々な話で盛り上がりたり、買い物へ行ったり、一緒にトランプで遊んだりして、ティーンならではの遊びもできて楽しみました。また、ご両親にも大変お世話になりました。私が喜ぶ場所や親戚の集まり、そして、美味しい御飯屋さんにもたくさん連れて行ってくれました。ホームファミリーは本当に日本が大好きな家族

で、たくさん日本の事を聞かれました。しかし、私の知らないことが多く、逆に教えてもらっている感覚でした。やはり自国の事をもっと知らなければならぬと実感しました。

カメラマンハイランドでのキャンプでは、関西組と名古屋組が一緒で、15名の日本のメンバーとホームファミリーの代表(同じ年代の人)が集まりました。そして、夜にはそのメンバー全員が集まり、チームを組んで歌を歌ったり、異文化交流をしたりして過ごしました。

標高約1700メートルの山を登山したり、バスに乗って、お茶屋さんや花屋さん、またやぎ小屋など色々な場所へ行ったりして、充実した日々を過ごしました。

そのなかで1番良かった事は、日本のメンバーとマレーシアのメンバーが交流でき、英語と日本語の教え合いなどをしてお互い高め合いながら楽しめたことです。

私はこのホームステイを通して、本当にたくさんの経験をjして、臨機応変に対応する力やコミュニ

ケーション能力と英語力を身に付けることができました。そうした目に見えてとれるものもある一方で、自分の心や知識なども著しく成長できたと思います。また異なった文化を持つ生活をして当たり前だと思っていたことが実は当たり前でないことにも気づき新たな発見になりました。私はこの機会をいただき本当に良かったと思います。有難う御座いました。

## 小林未侑

新発見、初体験の連続に圧倒された19日間。初めての出会いにあふれたこの留学を、私は一生忘れないと思います。それまで海外経験がなかった私は、期待よりも、不安と緊張で押しつぶされそうな気持ちを抱えたまま、出発しました。家族や友達と離れて、飛行機で15時間もかかるほど遠くに来たことも、当然生まれて初めてでした。今回の留学プログラムの前半はホームステイ研修から始まりました。最初に日本との違いを感じたのは、食べ物でした。日本に比べると、フルーツマーケットがとてもしっかりあり、多くの人が早朝から採れたての新鮮な



果物を買に行きます。加工せずそのまま食べても甘くてとてもおいしかったです。また、ポイズンベリーと呼ばれる黒っぽいベリーを、ホストファミリーがホーキポークアイスクリームにのせて食べさせてくれました。日本とは違う食材と調理法で出される食事は、まさに異文化体験でした。夏のクリスマスも初めてでした。サーフィンを乗ったTシャツのサインタクローズには会えませんでした。が、親戚がみんな集まって、プレゼント交換をしたり、特別な食事を楽しんで、賑やかに過ごしました。また、農場もあって、羊や馬、鶏、牛と触れ合う機会もありました。

19日間の後半はサマーカーンプに参加しました。ここでは本当にたくさんのお会いがありました。ホームステイとは違って、オーストラリア、インド、マレーシア、イタリア、ブラジル、アルゼンチンなど8ヶ国から集まった参加者たちは、母国語がそれぞれに違うので、共通言語は英語

しかありません。私は、何年も英語を勉強してきたのだから、なんとかなるとたかをくくっていましたが、英語圏以外の人との会話で、自分の英語力がいかに限られたものだったかを痛感しました。それでも、なんとかお互い必死にジェスチャーを交えて話すうちに、少しずつコミュニケーションも取れるようになりまし。みんな協力してキャンプ生活をし、バンジージャンプや、娯楽を超えた本気のアスレチックも体験しました。また、滝や川、日本では考えられないような泥だらけの沼地にも入りました。マオリ族の伝統民族舞踊であるハカを習ったことも貴重な体験でした。そして、参加者全員でカウントダウンを叫んで、花火で新年を祝ったことも、言葉では伝えられないくらい感動でした。ニュージールランドで、様々な国の人たちと出会い、時間を共有し、共に行動することで、私の中



にあった無意識の偏見が消えていった気がします。文化の違いを否定するのではなく、お互いを受け入れ、尊重し合っ

て仲間になっていく姿に刺激を受けました。いちばん仲良くなれたのがイタリア人でした。きっかけは彼らが日本に興味を持って来ていたからでした。日本に来たこともあって、日本の歌も知っていました。そのことが思いの外うれしくて、私も一生懸命英語を話し、イタリアの歌を教えるも

スをくれたライオンズ関係者の皆様、本当にありがとうございました。



4R1Z

村岡ライオンズクラブ

独居老人激励訪問

3月9日(金) から約1週間かけて、会員が香美町村岡区内80歳以上のひとり暮らしの方々160人を訪問しました。この激励訪問は30年前から続けており、直接お顔を見ながら声かけするとともに、カラコンエの鉢植えをプレゼントして喜んでいただきます。この活動は地元紙の「日本海新聞」に掲載されました。私たちはこの活動を40年、50年と継続していきたいと考えています。

村岡LC

鉢植え手渡し激励

ひとり暮らし高齢者を訪問

村岡ライオンズクラブのお年寄りを訪問。同クラブが30年前から(地主明会長の会員が、し、カラコンエの鉢植えを贈っている。香美町村岡区のとび春を贈っている。



カラコンエの鉢植えを笑顔で受け取る中村さん(右) 香美町村岡区川会

ひとり暮らしのお年寄り160人が対象。25人の会員が分担し、1週間かけて訪問している。例年3月上旬に行っており、以前はお年寄り宅周辺の雪かきも行っていたが、近年は降雪量が減ったため激励訪問だけになった。今年9日から訪問活動スタート。同区川会の中村裕子さん(22才)には、同クラブ幹事の石井利恵さん(61才)が訪問。赤いカラコンエの鉢植えを手渡した。中村さんは「本当にありがたい。来年も花を受け取れるように元気でいよう、と勇気やファイトが湧きます」と笑顔で話していた。(吉浦郁夫)

1R2Z

姫路中央ライオンズクラブ

高校生春休み

血液センター見学ツアー

幹事 池本史朗

去る、三月二十九日に高校生男性五名、女性三十名の三十五名とクラブ会員七名と姫路みゆき献血ルームの女性職員さんと大阪府茨木市にある「近畿ブロック血液センター」へバスで見学に行



きました。



これは、高等学校に「兵庫県赤十字血液センター 姫路営業所」の方が、高校生向けに「高校生対象献血セミナー」を実施されているのに対して、我がクラブは高等学校を紹介し、協力をしています。が、献血した血液は、どのようにしてどのように使われていくのか、実際に見て経験していただく事でより一層分かるのではないかと、今回計画実施いたしました。

高校生の募集は、「姫路みゆき献血ルーム」へ献血に来られた高校生に募集チラシを渡し、お友達と一緒に申し込んでねと声を掛けていただきました。今回は、保護者の承認を頂く事になっていたので、二度手間な事にな

ってしまいい、考慮する事かも知れませんが、参加者の学生から「こんな良い事姫路駅前配って欲しかったな。私は来られたいけど、知っていたら来たい人がもっといたと思う。」と心強い言葉を頂きました。アンケートの結果三十五名中二十一人がみゆき献血ルームで案内を貰って、十一名が友達に誘われ、親に勧められた方と、スマホのHPを観た人がそれぞれ一名でした。

さて、当日は姫路駅南のバスターミナルへ集合。みんな早く集合して名札をついたら出発。少しだけですが、学生にお菓子の袋詰めをお配りしました。大喜びです。行きは白痴病を題材にしたDVD「ありがたうの手紙」を見ながら新しくできた新名神を通り近畿ブロック血液センターへ向かいました。予定の十時より少し遅れましたが、近畿ブロック血液センターの所員さん、ボランティアの方、姫路から別便で来られた姫路営業所の所員さんにお出迎えしていただきま



した。まずは研修室へ入り、プロジェクトで血液型の種類や献血の重要性や、血液のお話でした。血液型もA・B・AB・O型の分類だけでなく、他にも沢山の種類の仕方があるのには、みんな驚きでした。

そして、二班に分かれて実際に作業している所へ見学に行きました。赤血球・白血球・血小板等大きさが違うので、フィルターを通して分類していく様子をみんな、神妙な顔で観ていました。

献血する時に最初の血液二十五mlは皮膚の破片やゴミなどが付いているので別の袋に収納され、その血液で、色々検査をされるそうです。合理的な方法だなあとみんな感心していました。世界で初めて献血したのが一六六七年に小羊の血液を青年に輸血して回復をした献血の歴史などを真剣な眼差しで聞いていたのがとても印象的でした。血液の白血球が輸血すると悪い症状が起こるので、成分分けして白血球を取り除いている事も知り、勉強になったそう

です。

そのあとは弁当をバス車内で食べ、カップヌードルミュージアムへ行きました。みんな思い思いのカップに絵を描きライオンを入れていただき四種類のトッピングに好きな出汁味を入れて、自分だけのマイライオンのできあがり。学生もメンバーも子どもになったように一生懸命作っていました。

記念撮影を撮って姫路まで帰ってきました。帰りも車中で「八月の二重奏」のDVDを観てみんな感涙していました。

ツアーの最後にアンケートを採りました。参加者のうち献血をした事のある方は三十五名中十七名でした。これから献血をするは二十六名の回答、分からないが六名ですが、わからないの回答の方に最後の意見にこれから献血に行きたいと希望が書かれていました。見学ツアーも三十四名の方が良かったと言ってくれました。

クラブとしては、血液センターでの研修ばかりでは・・・と思い研修を九十分コースにしてマ

イカップを作りに行ったのですが、「とても楽しめました。ありがとうございました。ライオンミュージアムでの自由時間はまだ少し短くても良かった。逆に血液センターでももう少しゆっくり勉強したかったです。」「バスで観たDVDがとても良かったです。少しでも患者さんの心に寄り添えるような看護師を目指して頑張ります。もちろん献血します。」との意見があり、真剣に参加してくださってるのだと嬉しく思いました。



1R1Z  
姫路大手前ライオンズクラブ  
結成50周年記念大会を  
終えて  
結成50周年記念大会  
大会委員長 河越祥郎



2018年3月22日(木)  
16時20分より、姫路キヤッスルグランヴェイリオホテル3階大広間にて、姫路市長 石見利勝様、兵庫県中播磨県民センターセンター長 田中基康様、ライオンズクラブ国際協会 国際本部役員 元国際理事 L西川義規、ライオンズクラブ国際協会 335-D地区 地区ガバナー L小林 寛をはじめ、335-D地区 地区役員の皆様、そしてスポンサークラブ、姉妹提携クラブ、エクステンションクラブの皆様、総勢250名の多数の方々



に御多忙中にもかかわらず、お集りいただき、華を添えていただき、誠にありがとうございます。大変盛大な50周年・半世紀の節目となる記念式典・祝宴が出来ました事、心より感謝申し上げます。私共、姫路大手前ライオ

ンズクラブメンバーは今までに残されてきた諸先輩の意義と深い伝統をこれから歩むべき新しい時代のライオンズで、将来のある融合を探り、地域に密着した奉仕ができるライオンズとして、来るべき60周年、70周年に向けて1R1Zの導き手となるようなライオンズをメンバー一同が心新たに邁進することを誓います。



4 R I Z

大屋ライオンズクラブ

献血と献眼登録の協力

3月30日 大屋地域局前にて献血と献眼登録の協力をしました。



5 R I Z

龍野ライオンズクラブ

薬物乱用防止教室



1月29日・30日の2日にわたり、たつの市立新宮小学校と龍野小学校にお

いて薬物乱用防止教室を実施した。プロジェクトを使って講演形式で行い、児童たちには薬物乱用防止小学生向き読本と3D下敷きを配布して見ながら学習してもらった。標本で薬物を紹介もし身近に潜んでいる薬物の怖さを知ってもらった。教室の締めくくりには、皆でゼットイダメ！と手を挙げながら唱えた。



出前講座を実施



3月6日(火)に兵庫県立龍野北高等学校の2年生を対象に出前講座を実施。全体基調講演では「人として生きる」をテーマに自分の持っている可能性を実現することの大切さ、社会をつくっているのは人(共生)など社会人としての心構えで大切な事を学ぶ場となった。また、分科講演では6学科でそれぞれ専門の方の

話を生徒たちは熱心に聞き、これから目指す職業の大切な事を学べたと生徒の声を聞けて、出前講座の意義の大きさを感じた。



5 R I Z

山崎ライオンズクラブ

第13回 粟粟市 さつきマラソン大会



4月15日(日)第13回粟粟市さつきマラソン大会が開催されました。大会当日は天候にも恵まれ、全国から2,497名のランナーが参加されました。警備のボランティアとして当クラブのメンバーも参加し、沿道から声援をおくりました。



5 R I Z

はりま一宮ライオンズクラブ 交通安全街頭指導

3月15日六粟市一宮町神戸地区の2ヶ所で朝の登校時に交通安全街頭指導を行いました。

3月19日六粟市役所にて、六粟市との災害時ボランティア協定を結びました。



薬物防止協議会へ助成

4月25日薬物乱用防止活動を支えるために、西播磨地区薬物乱用防止指導員協議会へ助成金を贈りました。

